

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立長野北高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断での生徒の授業満足度、進路指導充実度の向上</li> <li>・希望進路決定率の向上</li> <li>・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上</li> </ul>
計画名	長野北 ～体験し、考え、自己肯定感を高める授業の創造！～

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 自己肯定感を高める。</p> <p>(1) 授業改善を積極的に推進し、生徒の基礎学力を向上することにより、達成感を高める。</p> <p>ア 生徒が社会において必要とされる力について認識し、小・中学校でのつまずきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てるため、「分かる授業」・「楽しい授業」を実現する。</p> <p>ウ 公開授業や研究授業などの授業研究についての取組みを積極的に展開し、授業アンケートの結果を分析し、生徒が自発的・主体的に学べるための授業を推進し、授業力の向上を図る。</p> <p>エ 全教室にプロジェクターを配置するなど、学習環境の充実を図るとともに、ICT 機器の有効な活用方法を研究し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業改善に取り組む。</p> <p>2 多様な進路希望をもつ生徒の希望進路を実現する。</p> <p>(1) 進路実現に向けて、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。</p> <p>(2) 進路指導計画を整理・拡充し計画的な進路指導を実現する。</p> <p>イ 資格試験などに積極的に取り組む中で、社会において必要とされる力を認識するとともに自ら獲得できる生徒を育む。※ 就職希望者の決定率 100%をめざす。</p>										
事業目標	<p>ICT の活用や実験・実習等を通じて、生徒が主体的に体験し、考えることによる「分かる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒が積極的に物事に取り組み自らの個性を伸ばすことにより、自己肯定感を高める。また、自らの個性を理解し将来について考えることのできる生徒を育て、希望進路の実現を図る。</p> <p>① 授業研究 PT を中心に、生徒が主体的に体験し、考える授業に向けて、「ICT 活用授業」をはじめ、授業研究の成果を校内で共有できるシステムの構築を図る。</p> <p>② 大学進学希望者に向けて図書室に自習スペースを設置し、ICT を活用した「学びの場」を設定する。</p> <p>③ 就職志望者に向けて、企業の情報や自らの適正について検索できるシステムを構築する。以上により、授業アンケート及び学校教育自己診断の「授業（ICT 活用を含む）」および「進路指導」に関する設問の満足度をすべてにおいて 3 年間で 80%以上にする。関西私立中堅大学への進学者を 5 名以上、学校斡旋による就職内定を 100%にする。また、進路未決定者を 0 にする。</p>										
整備した 設備・物品	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>Apple iPad + ケース</td> <td style="text-align: right;">42 台</td> </tr> <tr> <td>タブレットスタンド</td> <td style="text-align: right;">18 台</td> </tr> <tr> <td>無線 LAN アクセスポイント</td> <td style="text-align: right;">18 台</td> </tr> <tr> <td>カラーレーザープリンター</td> <td style="text-align: right;">1 台</td> </tr> <tr> <td>収納保管庫（21 台収納）</td> <td style="text-align: right;">2 台</td> </tr> </table>	Apple iPad + ケース	42 台	タブレットスタンド	18 台	無線 LAN アクセスポイント	18 台	カラーレーザープリンター	1 台	収納保管庫（21 台収納）	2 台
Apple iPad + ケース	42 台										
タブレットスタンド	18 台										
無線 LAN アクセスポイント	18 台										
カラーレーザープリンター	1 台										
収納保管庫（21 台収納）	2 台										

<b>取組みの        主催・実施者</b>	主催：授業研究 PT（パッケージ研修、ICT 活用研究、授業公開月間などを担当） ⇒R1 年度より「学力向上 PT」へ改編 取組みの実施者：全教員
<b>本年度の        取組内容</b>	1 年めに整備した設備を活用し、以下の取組みを行った。 ① 授業研究 PT が中心となり、年 2 回授業公開月間を設定、ICT 機器の活用方法や利用について学校全体で共有した。 ② 生徒に 1 人 1 台 iPad を活用できる授業を複数教科で実施し、主体的に体験・思考する授業を実践した。 ③ パッケージ研修を昨年に引き続き受講し、本校の活用についてさらに研究を行った。ICT を活用することで業務量の見直し、授業改善を推進した。 ④ 学校情報クラウドシステムを活用し、生徒・保護者への連絡を迅速に行い、連携を深めた。
<b>成果の検証方法        と評価指標</b>	<b>【授業アンケート・学校教育自己診断における肯定的回答率】</b> ① 「DVD などの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」項目 70%以上 ② 「授業では、実験や実習、発表の機会がたくさんある」項目 70%以上 ③ 「授業が分かりやすく楽しい」項目 70%以上 ④ 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」項目 85%以上 <b>【進路実績・学力診断テスト】</b> ⑤ 中堅私立大学受験者数 10 名 ⑥ 学校斡旋就職内定者率 95% ⑦ 基礎力診断テスト学年評価「C2」 ⑧ 四年制大学・短期大学進学希望者の合格率 90% ⑨ 進路未決定者数ゼロをめざす
<b>自己評価</b>	<b>【授業アンケート・学校教育自己診断における肯定的回答率】</b> ① 「DVD などの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」項目 70%以上 (H29 年度 44% H30 年度 74%) …91%…………… (◎) ② 「授業では、実験や実習、発表の機会がたくさんある」項目 70%以上 (H29 年度 51% H30 年度 58%) …70%…………… (○) ③ 「授業が分かりやすく楽しい」項目 70%以上 (H29 年度 49% H30 年度 53%) …64% (△) ④ 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」項目 85%以上 (H29 年度 58% H30 年度 74%) …83%…………… (△) <b>【進路実績・学力診断テスト】</b> ⑤ 中堅私立大学受験者数 (H30 3 名) …… 2 名 (桃山学院 2) …… (△) ⑥ 学校斡旋就職内定者率 (H30 95.1%) …… 95.1%…………… (○) ⑦ 基礎力診断テスト学年評価 (H30 1 年 D3+、2 年 D3+) …… 2 年 D3+、3 年 D3+ …… (△) ⑧ 四年制大学・短期大学合格率 (H30 81%) …… 98%…………… (○) ※ 公募推薦入試において国立大学 (和歌山大学観光学部) の合格者が 1 名出た。 ⑨ 進路未決定者数 (H30 4 名) …… 8 名…………… (△)
<b>次年度に向けて</b>	成果の検証に使った授業アンケート・学校教育自己診断の項目については、4 項目中 2 項目が評価指標に到達している。特に「教材活用」の項目においては、9 割の生徒が肯定的な回答をしており、本事業で導入した iPad や無線 LAN を授業等で有効に活用できていることを示している。「授業は分かりやすく楽しい」の項目については、評価指標に届かなかったものの、昨年度より 11pt 上昇しており、学力向上 PT が中心となって推進している授業改善の取組みが成果を上げていることがうかがえる。中堅私立大学受験者は昨年度の 2 名にとどまったが、公募推薦入試において国立大学 (和歌山大学観光学部) の合格者が 1 名出ている。 本校で整備した環境と本事業で整備した環境 (ハード・ソフトを含む) を、授業や研修、学校行事等においてに効果的に活用することができた。次年度は、今年度の取組みを継続しながら、新たな取組みを企画・立案し、「全教員」で一丸となって取り組んでいく。本年度目標に達しなかったアンケート等の項目も、昨年度に比べると大幅に向上している。進学実績等につ

いては、今年度は整備した物品と併せて学習支援クラウドサービスも活用して、生徒が進路実現に向けて学習できる方法を実施したが、目標に到達できなかった。次年度は、整備した物品のさらなる活用を進めるとともに、「基礎学力向上講習」を企画し、生徒が「やればできる」という自信を獲得することをめざす。基礎力診断テストの結果を踏まえ、今年度は基本的な生活習慣の確立のため遅刻の減少にも取り組んだ。遅刻の数は昨年度より 1000 件ほど減少するなど成果が見られた。教員減少に伴い、「全教員」で一丸となり「わかる授業」「楽しい授業」を実現するとともに、「やればできる」という自信の獲得をめざして、生徒一人ひとりにあつた指導を継続して行っていく。